



山都町の未来図 ～山都町農業研修制度～

高齢化が進む山都町では、基幹産業である農業の後継者や担い手の確保が急務となっています。本町では「山都町農業後継者就農交付金」や「山都地域担い手育成総合支援協議会」等の独自の支援策を設け、地域農業の担い手となる人材の育成・確保に力を入れています。

「山都町農業研修制度」は、平成30年度に、後継者・担い手確保策として、また、かねてより問合せや希望が多かった本町への有機農業研修を含めた研修機関を創設し、移住定住促進を織り交ぜた町独自のワンストップの制度としてスタートしました。

町内外の就農希望者（原則18歳から48歳まで）を対象にしており、主に、山都町で有機農業を志す移住者を中心に活用されています。

研修者が作付けしたい作物等を栽培している町内の農家を受入農家とし、受入農家の下で農畜産物の経営や栽培・飼育技術、農業機械等の操作や農村生活体験に関することなどの現地研修や、協議会による月2回の集合研修（座学・先進農家視察）を1年以上2年以内の期間で経験・習得してもらい、その後、町内で農家として自立することを支援する制度です。

農業研修制度に関する問合せ先

山都地域担い手育成総合支援協議会（山都町役場農林振興課内） ☎ 72-1136

山の都地域しごとセンター ☎ 72-9111

平成30年度から始まった当研修制度の3人目の研修生で、2年前に東京から山都町へ移住し、今年4月に独立された本田渉さん（北中島）を紹介します。

■山都町を選んだ理由は何か？

山都町に来る前は国際協力機構の生物多様性保全の専門家として、中南米を中心に活動していました。その活動の中で、野生生物保護区内などで生活する人々の生計向上に資する有機農業に触れ、興味を持ちました。

また、以前から地方移住に興味があり、母親の実家が大部分県という縁もあり、移住するなら九州という思いはずっとありました。そして妻も有機農業がしたいという思いがあったので、「九州で有機農業」をキーワードに情報を探していたら山都町に出会いました。有機農家から直接指導を受けることのできる農業研修など、制度が充実していると思いました。加えて、山都町は有機農家数が多い町という点で、ここに来たら色々面白い出会いがあるのではないかと期待もありました。それから都内であった移住イベントで「山の都地域ごとセンター」の兼瀬さんとの出会い、導かれました（笑）

■現在どちらで農業をされていますか？

男成でハウスの大玉トマト、国道を挟んだ野尻で長ネギを露地作で育てています。

圃場については事務局や研修受入農家さんから数カ所紹介してもらいました。その中から自分の条件に合う圃場をタイミング良く選ぶことが出来たので、運も良かったと思います。また、農業委員会でも空いている農地について相談したところ、すぐに紹介してもらえました。移住してきて、農地を自分で一から探すとなると中々ハードルが高く大変です。紹介して頂けてとても助かりました。



受入農家の田上さん（左）と本田さん

■研修ではどのような事を学ばれましたか？

田上貴士さん（城平）とそこから、露地栽培の人参、レタス、水稲、玉ねぎ、ブロッコリー、里芋、施設栽培の青梗菜といった野菜の栽培方法や、トラクターや管理機等、農業機械の使い方、メンテナンスタについて教えていただきました。また、トマトなど果菜類についても学びたいと思いい、事務局に相談したところ、下竹淳文さん（下名連石）のところで大玉トマト栽培の研修を受けさせていただくことが出来ました。

農業の素人だったので作業の進め方や考え方などについて理解を深めることが出来ました。研修の一環で、座学や農業アカデミー、受入農家さんの勧めで受けたBLOF理論（※）の勉強会などで知識を身につけることができ、それに現場経験も加わり、相乗効果がありました。町内の農家さんや農業関係者、県内の農業研修生との社会ネットワークを拡充することができ、今そのネットワークで様々な交流があったり、新たな学びがあったりします。これは研修を受けて得られた大きなものだと思います。研修期間中に就農準備を進められたこともよかったです。

（※）BLOF理論とは、株式会社ジャパンバイオファームの小祝政

明氏が提唱・実践する有機栽培技術。作物が育つために必要な土壌中の栄養成分を分析し、最適な施肥や太陽熱養生処理等を行う。昨年9月に行われた国連総会のSDGsの技術学術検討会議など海外でも高い評価を得ている。

■独立して農業を始めて、改めて魅力など感じたことはありますか？

研修で学んだことを実践で生かそうとすることが難しく、でもその難しいことにチャレンジするところにやりがいと魅力を感じます。例えば、研修中に「20センチ間隔でトマトの果房がなるようにする」というのを聞いて、その時は「なるほど」と聞いていたのですが、実際自分でやるとなると「どうやってやるんだ？」となります。ちゃんと施設設計や生育管理が出来た上で達成できるものなのだと思いました。

受入農家をはじめとした先輩方から学んでいる農作業は、一見シンプルに見えますが、それはつまり非常に洗練された技術である証で、改めて凄みを感じました。研修中はもらったテキストの文字を追いかけていただけでわかった気になっていました。今改めて読み直すと、また違った捉え方になります。

■これから山都町でやりたいことはありますか？

自分の今までのキャリアを、山都町の文脈の中で生かす活動が出来ればいいと思います。例えば野生生物管理の知識や経験は獣害対策にも生かせると思います。またポッドキャストなどを通して、地方移住や農業、動物物のことなんかを配信できたら、面白いだろうと思います。また、青森県水産振興課が水産物に関心を高めてもらうために取り組んでいる「漁師カード」のように、野菜と一緒に農家さんも様々な形で紹介する、攻める広報を試してみても面白さうな思います（笑）

■研修内容や独立後の現状について報告会が開催されました。

農業研修制度の締めくくりとして研修報告会が行われ、今回研修を修了した本田さんと、昨年度研修を修了した上田裕之さん（鶴ヶ田 富山県出身）と城崎真理さん（麻山 神奈川県出身）の現状報告が行われました。

本田さんは経歴や研修で学んだこと、抱負などについて発表されました。城崎さんは、独立時に策定した就農計画の見直しを行い、新たに作り始めたじゃがいもやミニパプリカ等



左から上田さん、梅田町長、本田さん、城崎さん

■販売について報告をされました。

研修終了後も受入農家さんへの相談や、近所の農家さんとの交流、販売活動で気付かれたことを柔軟に織り交ぜながら農業に取り組まれています。

上田さんは、1年目と2年目の作物の生育や病気等について比較しながら発表を行いました。一つ一つの作物と向き合い、試行錯誤しながら様々なことにチャレンジされています。現在、里いも栽培に取り入れられている「草マルチ」についての報告には、報告会に参加していた受入農家さんなどベテラン農家の皆さんも興味を示されていました。

令和2年度の研修生を紹介！

紹介します！

研修生…渡邊竜也さん（上寺）
受入農家…藤原徳門さん（島木）
研修作物…茶、（ピーマン、米など）

熊本市から移住して7月からは町の空き家バンクで見つけた住宅で生活を始めます。祖母が昔からお茶を栽培しており、小さい頃から矢部茶を飲んで育ち、お茶への思い入れがあります。道の駅で販売されていた茶葉を飲み比べ、藤原さんのお茶が一番惹かれ藤原さんの元でぜひ研修したいと申し込みました。色んな農家さんから昔ながらの手法や、現状、課題等を聞き、山都町産のおいしさの要因等について研究したいです。



受入農家の藤原さん（左）と渡邊さん

研修生…立田幸広さん（塩原）
受入農家…二宮昌隆さん（二津留）
研修作物…ピーマン（路地）、トマト（ハウス）

親も農家ですが、自分自身が就農するにあたり栽培方法だけではなく、販売や経営の流れについてもきちんと勉強して知識を身につけたかったので研修制度に応募しました。

研修作物は、夏場の収入を確保するため親が作っていない作物を選びました。まずはピーマンの栽培を安定させてから他の作付けを検討したいです。今後はスマート農業など最先端の技術などを学びたいです。



左から立田さんと受入農家の二宮さんご夫妻